

国試&マッチングの最新情報をお届けします。

第32巻第11号 平成23年12月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和58年7月9日 第三種郵便物認可 ISSN 1349-2268

2012

Kokutai

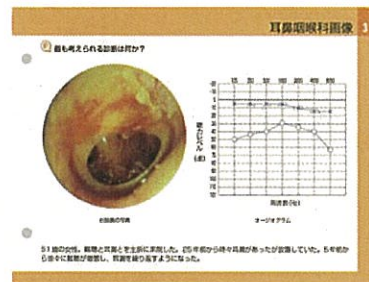
1

月刊 医師国試対策

106回国試は コレが出る



ガイドライン改訂、感染症、法改正 etc
トピックスと出題傾向から106回を予測



Study

Dr.momoの画像診断 ■正常像との対比で学ぶ読影法「脊椎・脊髄疾患」

Case of the Month ■読者応募型の画像診断クイズ「病理画像」

画像トレーニングカード ■重要疾患のポイントを整理「耳鼻咽喉科」

Information

特別企画 ■もう一つの試験対策「受験サポートマニュアル」

医学教養“超”入門 ■医学の歴史を振り返る「DNA」

諸国医療事情 ■海外事情の最前線「チャリティーと緩和ケア」

医学教育出版社
<http://www.igakuyoiku.co.jp>

浜田 久之医師

(長崎大学病院教育開発センター教授)

あきらめない心

いつも穏やかな表情で、茶目っ気に溢れる口調がとても印象的な浜田久之医師。スタッフや研修医からは「浜ちゃん」との愛称で親しまれている。浜田医師は子どものころに航海記を題材とした本に出会い、それがきっかけで医療に興味をもち始めた。「医者になって船医として世界中を回りたい」という思いを抱き成長するのだが、残念ながら船医という夢は船酔いというハンデもあって!? あきらめなければならなかった。しかし無事に医学部で学業を修め、そして卒業後は地域に密着した医療の道に進むことになる。

自身の海外への留学体験も含めて、浜田医師は「人と人のつながりの深さが日本の地域医療の特徴の一つになっている」と話す。地域医療は以前と比べると、へき地や離島の病院・診療所であっても最新鋭の機器を備えるところもあり、またドクターヘリの運用などによって時間的・空間的な問題も解決する方向へ向かっている。そして、浜田医師はこのような地域で研修する意義を次のように語る。「地域医療をやると研修医でも早くプロにならなければならないと感じるでしょう。住民から頼りにされ、尊敬もされる一方で、医師としての責任も問われます。自分自身が磨かれるという意味においては、これも魅力の一つかもしれませんね」。

現在、浜田医師は長崎大学病院教育開発センター教授以外に、新・鳴滝塾事務局長という肩書きをもっている（詳細はp.12～）。いまでは長崎県の医学教育を担う一人として活躍しているが、実を言うと医師になるまでにかなりの遠回りをしている。この経緯については紙幅の関係で詳しく書けないが、実際に医学部に入ることすら相当苦労したという。さらに学生時代、医師国家試験の2カ月前の模試で、学内105人中100位という惨憺たる結果に教授から呼び出され、熱い激励を受けた苦い経験も。そんな浜田医師だが、最後に自らの経験も踏まえて受験生にエールを贈ってくれた。

「勝負ごとですから、優秀な人は油断しない。私みたいな劣等生はとにかく最後まであきらめない。気合いです!! 春に満開の桜の下で、ドクターとなった姿を思い浮かべてがんばってください」。

あきらめない心が明日の自分を作っていく。きっと浜ちゃんもあきらめなかったのだろう。

Dr's File : 09



ながさき・・・いいかも。

Q

長崎県について正しいのはどれか。すべて選べ。

- a 俳優・歌手の福山雅治は長崎県出身である
- b 日本一の臨床研修を目指している
- c 1824年にシーボルトが鳴滝塾を開設した

Ans. 問題はすべて正解です。選択肢bって本当なの!? と思った人もいるでしょう。編集部も少し不思議だったので、いろいろと調べてみると、なんでも新・鳴滝塾が中心になっていて、4年連続で長崎県のマッチ率をアップさせているとか。まさか発足人はシーボ

ルトの末裔（なわけないか）？ で、考えていてもしようがないので、直接聞いてしまおうと新・鳴滝塾事務局長のDr.ハマちゃんこと浜田久之医師に突撃インタビュー。先生、新・鳴滝塾って何ですか？「堅苦しい質問だね。この雑誌は医学生が読むんだよね。だったら、研修病院選びで迷っている皆さんのためになる話をしよう」。なんて太っ腹な。宣伝のチャンスなのに、ブツブツ……。でも浜田先生のお話はとっても面白い。熱く熱く語ってくれたお話は今月号から3回に分けて紹介します。

第1回 地方と都会の研修事情

でっかいチャンスを地方でつかめ！

より多くの症例に触れ、手技も数多く経験できて、臨床力が身につくのは地方の病院だね。都市に比べると医療資源が少ないのは事実だけど、裏を返せば患者さんの選択肢が限られるから、1カ所の病院にさまざまな症例が集まってくる。病院あたりの研修医の数が都市の病院よりも少ないから、必然的に1人ひとりの研修医が経験するcommon diseaseの数が多くなる。手技だって、例えば1年間に下部消化管内視鏡検査を200件経験した研修医がたくさんいるよ。手術に入るチャンスも多いしね。実際に、初期研修を都市の病院で受けて戻ってきた人よりも、長崎に残った人の方が技能が上、なんてことがよくあったりする。

将来のポジションを考えてみても、チャンスは多いが競争も激しいのが都市。地方は、実はいいポジションをつかみやすい。都市には有名病院が多く高名な先生もたくさんいるけど、行けば誰でもチャンスがつかめるとかというそうじゃない。キャリアの先がみえないという地方に戻ってくる人もいるくらいだよ。地方にも、都市に劣らず長い歴史があり、臨床や研究でトップクラスの領域をもつ病院がある。例え

ば長崎大学病院には150年もの歴史があって、感染症学や放射線医学の研究・治療で世界的に知られている。海外との交流も深く、ドイツ、米国、韓国、中国、ウクライナからの留学生が数多くいる……若手医師が、国内外の留学のチャンスをつかみやすい環

境だよ。現在は県内17病院がネットワークを構築し、人的交流に力を入れているから、将来のポジションを見据えてキャリアを積むことができる。

プライベートも充実した研修を過ごすには。

人も含めた住環境全体で考えれば、地方のよさがみえてくる。そのためには、まずプライベートが何のためにあるのかを考えてみよう。仕事が充実していてこそプライベートだし、両方をバランスよく満たす必要がある。地方のよさは「住みやすさ」。住環境がよく、物価が安いという“住”の基本があり、何よりも周囲の人が温かい！ 長崎は出島でも知られるように昔から外の人を受け入れてきた土地柄で、人々が穏和なのが魅力。研修医に対する視線も、都会に比べおおらかだと思う。縁もゆかりもなく「何となくいいな」というイメージで長崎に来る研修医が最近増えてきているけど……満足している……はず！

研修病院選びで一番大切なことは……。

自分の将来をイメージした上で、初期研修だけでなく、専門研修も視野に入れて、多くの選択肢と多様な指導医との出会いがありそうな病院または地域を選択すること。今は目先のことしかイメージできないかもしれないけど、都市だからといって、いい専門研修が用意できるわけでもないし、一方で、地方でも質の高い研修はできる。例えば、長崎大学病院の専門研修は国からAランクのお墨付きをもらっている。そして、本人でも気付かない能力を引き出してくれる指導医に出会えることが、何より一番いい研修。もちろん、長崎にはそういう指導医がたくさんいるよ。

(第2回へつづく)



Dr. Hama-chan

●浜田久之のprofile

新・鳴滝塾事務局長。内科医。大学を卒業後、地域医療に携わる。長崎医療センター総合診療科棟の立ち上げを行った後、トロント大学へ留学。平成23年より長崎大学病院医療教育開発センター教授に就任し、研修医教育に従事。

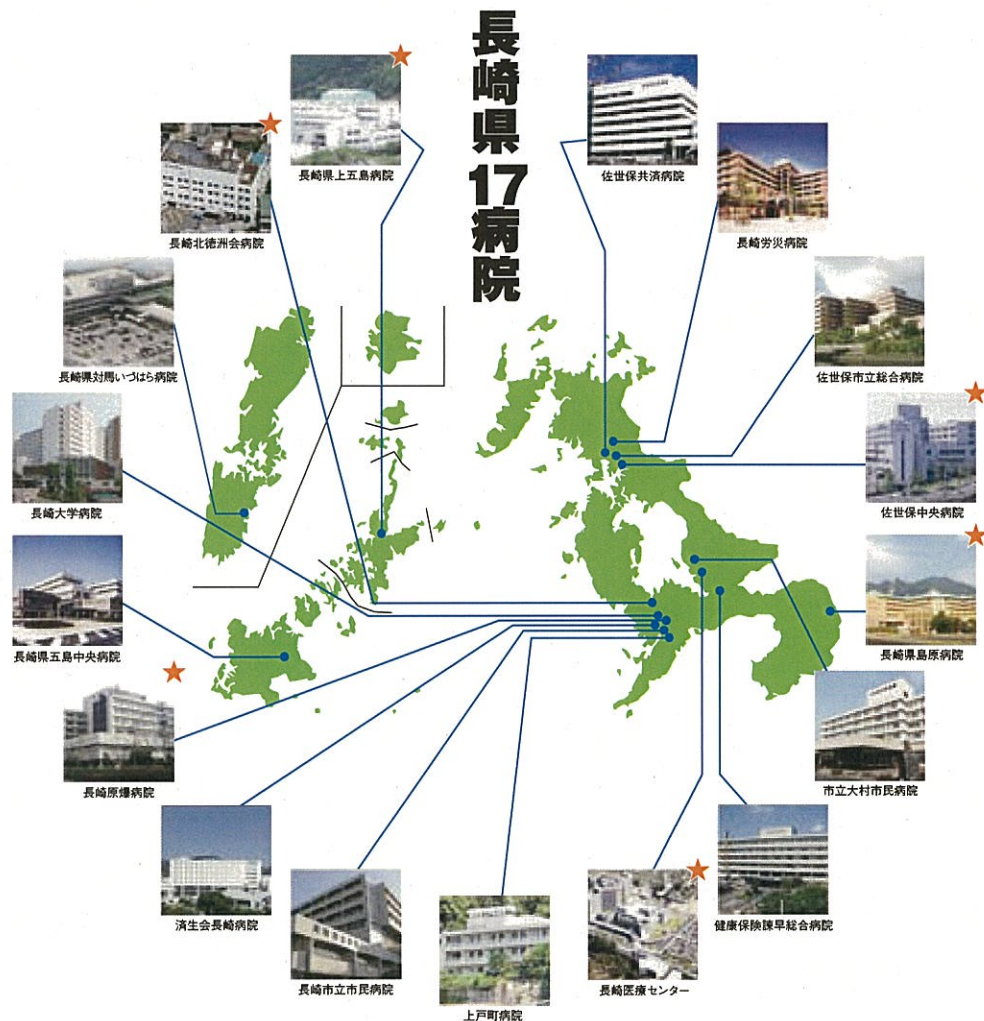
新・鳴滝塾とは

長崎県にある17の研修病院への見学・実習のコーディネートをはじめ、それぞれの病院の魅力を伝えるためにさまざまな広報活動などを行っています。長崎県の病院を見学したいけどお金がないな～、興味のある病院があるけれど、いまいよく分からないからどうしようかな～と思っている皆さん、新・鳴滝塾にはこんなサポートがあるので、ぜひ知っておいてください。

**ココが
凄い①** 病院見学・実習のための旅費を
サポート！

**ココが
凄い②** 見学先病院のコーディネートをお手伝い！

「自分は〇〇科を志望しているんだけど、どんな病院があるんだろう」「せっかくだから一度にいくつかの病院を回りたい」……。こんな悩みや希望をもっている人のために、新・鳴滝塾ではそれぞれの希望に沿って最適な見学・実習をコーディネートしてくれます。さらに長崎県17研修病院へ見学・実習に来る人には旅費の一部をサポートしてくれるという、至れり尽くせりのフォロー。長崎で新体験を味わってください。



★：今月号で紹介している病院。その他の病院は、次号と2012年2月発行の『Kokutai 準備号』で紹介します。

2012年3月4日(日)に長崎県病院合同説明会を開催します。詳細は下記ホームページにて告知します。

■新・鳴滝塾ホームページ <http://www.narutaki-jyuku.jp/>
TEL : 095-865-8351 MAIL : info@narutaki-jyuku.jp ■担当：林田

新・鳴滝塾

検索

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター



ドクターヘリを完備した救命センター・周産期母子医療センターや長崎大学連携大学院の講座を有する（臨床研究センター）など、1971年に医師の臨床研修病院に指定を受けて以来、臨床教育にも力を注いでいます。大村市は人口9万人ですが、医療圏にすると50万人前後の規模となります。



■ 2年目研修医：北島 翼先生（長崎大学卒）

Q 医局はどのような雰囲気ですか？ コメディカルや事務の方との関係は如何ですか？

A 各科の先生同士の垣根が低く、研修医と上級医の先生方との距離も近いので、コンサルトしやすい環境です。また、コメディカルや医療事務の方々と研修医の距離も近く、お互いに相談しやすいです。

Q どうしてこの病院を選んだのですか？ 研修を受けてみて、実際どうですか？

A 元々は「病院がきれい」ということと、「なんとなく明るい」という漫然とした理由でした。実際に勤務してみて、すばらしい先輩方や、同期・後輩の研修医に引っ張ってもらいながら、自然と充実した研修ができています。

Q お休みの日は何をしておこなわれますか？ 観光やレジャーのお勧めスポットなどはありますか？

A 長崎医療センターのある大村では、焼肉の美味しいお店が多いです。交通の便も良いので、長崎・福岡などで週末を過ごすこともあります。

- 担当：臨床教育センター 岡元・吉田
- URL：<http://www.hosp.go.jp/~nagasaki/>
- 病床数：643床
- 2013年度 初期研修医の募集人数：22名

日本赤十字社 長崎原爆病院



当院は名前のおと原爆被爆者の医療・健康管理と、赤十字病院としての社会的使命という2つの大きな役割を担っており、急性期疾患対応の地域中核病院として救急告示指定病院・輪番制第二次救急医療機関の役割を果たしています。また、地域がん診療連携拠点病院の指定、長崎地域医療連携ネットワークシステム「あじさいネット」への登録など地域医療や医療水準の向上に努めています。その他、DPC施行病院の指定、看護配置基準7対1の認可、電子カルテシステムの導入、病院機能評価（Ver.5）認定更新、平成22年度にハイケアユニット（HCU）の設置、リニアック設備の更新など、医療の質の向上にも力を入れています。



■ 臨床研修実施責任者（副院長）：上田康雄先生（長崎大学卒）

Q 貴院の研修の特徴を教えてください

A 救急部門については、当院は救急告示病院として地域における救急医療の中核を担っており、一次・二次救急を豊富に研修できる環境にあるので、年間を通じローテーションにとられずに救急医療を指導医と共に行い、救急・プライマリケアの基本的な診療能力（態度・知識・技能）を身につけることができます。また、必修科目（内科、救急部門、地域医療）のみならず、選択必修科目（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）についても長崎大学病院などの協力のもと、全て必修科目として取り入れ、2年間の研修期間の中で十分に研修目標を到達できるプログラムを設定しています。CPCはローテーションに関係なく全ての研修医が参加するようにしています。選択科目の研修

期間は9ヶ月間で、研修医が自由に将来専門とする診療科などで研修できる期間を長く設定しています。地域医療についても、長崎県の地域特性を活かした離島の協力施設における研修を準備しています。

- 担当：情報企画課 山崎
- URL：<http://www.nagasaki-med.jrc.or.jp/>
- 病床数：360床
- 2013年4月入局の募集人数：5名

医療法人 徳洲会 長崎北徳洲会病院



昭和61年11月開院。長崎市北部と郡部のベッドタウン約25万人が主たる医療圏です。年中無休・24時間オープンで地域に根ざした、救急からリハビリテーションまで一貫した医療をニーズに沿って実践しています。救急医療は県内屈指の受け入れ件数を誇り、特に外傷、脳血管障害の患者が多く、重症多発外傷や心肺停止例ではその半数が搬入されています。

■事務：田中 謙一郎

Q 貴院の研修の特徴を教えてください

A 総合的な臨床能力を有する医師の育成を目指すもので、厚生労働省の臨床研修の到達目標達成を目的とし、エマーゲンシーケアとプライマリ・ケアを基盤とした、総合診療方式（スーパーローテート方式）による2年間の初期臨床研修プログラムである。

■研修医：中川 康一郎

Q どうしてこの病院を選んだのですか？研修を受けてみて、実際どうですか？

A common diseaseを中心に、数多くの症例を経験させていただいています。指導医の先生は経験豊かな方々ばかりで、着かず離れずの絶妙の距離からサポートしていただき、頼りすぎることなく、責任感を持って診療に当たられます。当院は、病床数108の小規模病院で、内科・外科・整形外科・脳神経外科・

精神科(心療内科)が主な診療科です。症例は多岐に渡ります。とてもアットホームな雰囲気です。小規模病院がゆえの良さを、当院での研修でぜひ味わってください。

■研修管理委員長：立石 紀昭

医局員が全員参加する勉強会や症例検討会を、ほぼ毎日開催しています。病棟も医局も小規模のため、このように全員参加型の指導が行われることが特長です。救急車が到着したときも、必要時には全員が集まります。

- 担当：田中 謙一郎
- URL：<http://www.tokushukai.or.jp/hsp/nagasakiita/>
- 病床数：108床
- 2013年度 初期研修医の募集人数：2名

社会医療法人財団 白十字会 佐世保中央病院



当院は佐世保市で臨床研修病院に指定された唯一の民間病院です。患者様が一日も早く社会に復帰されることを願い、地域の皆様へ安心安全の医療を提供できるよう努めています。平成23年には社会医療法人の認定を受けました。病診連携を重視した地域完結型医療の提供、人材育成や最新医療機器の導入、救急の受け入れ態勢強化に努め、地域医療のさらなる貢献を目指しています。

■医師Y

Q 貴院の研修の特徴を教えてください

A 救急搬送数は年間2,000件近くになり、一次から三次までの様々な症例の患者様が受診されます。そのため、最初にトリアージする判断力が養われ、プライマリケアの基礎的な知識が身につきます。救急ではCT検査などが多く、わからないこともありますが、放射線科の先生がすぐに相談にのってくれます。

■研修医H

Q 医局はどのような雰囲気ですか？

A 医局は診療科に関係なく机が配置され、私の両隣には異なる診療科の先生がいらっしゃるの、ちょっと悩んでいると声をかけてもらったり、また相談したりして、様々な意見やアドバイスをいただけます。病院全体でチーム医療に取り組んでいて、コメディカルや事務の方とも関わることが多く、皆さんのチームワークに助けられながら楽しく研修ができました。

■医師S

Q 研修を受けてみて、実際どうですか？

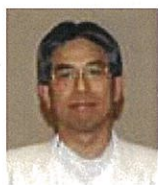
A 1番のポイントは、垣根のない医局の雰囲気です。いつでも質問しやすく、幅広く学ぶことができました。今は教える側となり、研修医の疑問が解決するまで相談にのるようになっています。これまでに、消化器内視鏡に興味があるとの事から実際に半年間で上部600例、下部200例の内視鏡検査を担当した研修医もいます。研修医のやる気しだいで、研修内容が調整され、とても充実した研修を受けることができます。

- 担当：総務課・松尾一賢（マツオ カズマサ）
- URL：<http://www2.hakujuyikai.or.jp/chuo/>
- 病床数：312床
- 2013年度 初期研修医の募集人数：2名

長崎県上五島病院



当院は、長崎県五島列島の中央部に位置し、地域の中核病院として地域医療に貢献しています。地域と共に歩み、信頼され親しまれる病院を目指し、上五島における地域医療はもとより、救急医療、在宅医療、検診など、地域における医療・福祉・保健の統合を目標に活動しています。



■ 院長：八坂 貴宏（長崎大学卒）

Q 貴院の研修の特徴を教えてください

A 卒後臨床研修制度の基本理念である「医師としての人格の涵養」「プライマリ・ケアの基本的な診療能力」を身に付ける上では、非常に有利な地域性、社会性、地域医療システムがあり、本土病院と連携することで、医療連携、遠隔医療、専門医療も学ぶことができます。



■ 〇年目研修医：佐藤 晋平（順天堂大学卒）

Q どうしてこの病院を選んだのですか？研修を受けてみて、実際どうですか？

A 大学の恩師のご縁です。実際に研修してみても、他と比較はできていませんが、大変恵まれているといつも聞かされています。たくさんの方が経験できるのでありがたいと感じます。

なお、医局は全科の医師と同じフロアーなので、何でも相談しやすいです。コメディカル・事務の方も接しやすく、色々なことを教えてください。



■ 〇年目研修医：種田 知瑛子（長崎大学卒）

Q 生活環境やアメニティーは充実していますか？

A 3LDKの官舎で、とても快適です。病院の隣にスーパーがあり、夜11時まで開いているので便利です。

- 担当：中村 文彦
- URL：http://www.kamigoto-hospital.jp
- 病床数：186床
- 2013年度 初期研修医の募集人数：2名

長崎県島原病院



当院は、長崎県島原市に位置しており、眼下には有明海、背後に眉山がそびえる豊かな自然に恵まれた環境にあります。また、島原半島における急性期医療・救急医療を担い、災害医療機能を備えた総合的な地域中核病院として機能しています。研修医は少数精鋭で、内科系に及ばず外科系も一緒になって診療を行っていますので診療科の壁が全くありません。熱い指導医のもと多くの症例数を経験できます。



■ 1年目研修医：津田 健希（香川大学卒）

Q 貴院の研修の特徴を教えてください

A 少人数精鋭の研修のため、数多くの幅広い症例が経験可能となっております。1年目の研修医は私ひとりなので、内科研修では消化管内視鏡検査、気管支鏡検査、心カテなど様々な手技を数多く経験させてもらえます。外科研修では、ほぼ全ての手術に入らせてもらえ、かなりの数の手術を経験することができます。その他、詳しいことはwebで。

Q 生活環境やアメニティーは充実していますか？

A 島原は半島という海に囲まれた環境のため、海の幸がとても豊富です。働きだしたら忙しすぎて痩せるかと期待してましたが、ご飯がおいしく全然痩せません……。また、温泉がたくさんあり、疲れた時は温泉に入って癒されています。

Q 後期研修先や志望科など、初期研修後の進路が決まっていたら教えてください。

A 私は将来、外科医志望です。島原病院は、九州圏内でも有数の外科手術症例を誇る施設なので研修先を選びました。

- 担当：総務係 早田
- URL：http://www.shimabarabyoin.jp/
- 病床数：254床
- 2013年度 初期研修医の募集人数：2名